

令和4年度 第4回経営協議会議事要録

日 時：令和5年1月26日（木） 10：30～11：21

場 所：オンライン会議（Teams）

出席者：太田学長、川村委員、楠見委員、佐々木委員、杉田委員、種田委員、辻山委員、沼田委員、幅委員、睦好委員、久留主理事・副学長（総括理事・教育）、佐川理事・副学長（学術・企画・評価）、山岸理事（総務・財務）・事務局長、鳥羽田理事（社会連携・基金運営）、菊池理事（ダイバーシティ・国際・SDGs）、原口人文社会科学部長、野崎教育学部長、岡田理学部長、乾工学部長、宮口農学部長

監事監査規則第9条第2項による出席者：人見監事、浅見監事

議 題：

審議事項

- 1 第4期中期目標・中期計画の変更について
- 2 第4期中期目標期間予算編成方針（案）について

報告事項

- 1 イバダイビジョン2030の達成に向けて～研究～
「研究力の強化と」知「の好循環の確立による持続可能な社会の構築への寄与」

議 事 概 要

I 審議事項（○：経営協議会委員 ●：大学事務局等）

- 1 第4期中期目標・中期計画の変更について
太田学長から、第4期中期目標・中期計画の変更について、資料1に基づき審議願いたい旨の提案があった。次いで、大学戦略・IR室長から説明があり、審議の結果、提案のとおり了承された。
- 2 第4期中期目標期間予算編成方針（案）について
太田学長から、第4期中期目標期間予算編成方針（案）について、資料2に基づき審議願いたい旨の提案があった。次いで、財務課長から説明があり、審議の結果、提案のとおり了承された。

II 報告事項

- 1 イバダイビジョン2030の達成に向けて～研究～
「研究力の強化と」知「の好循環の確立による持続可能な社会の構築への寄与」
金野副学長から、イバダイビジョン2030の達成に向けた研究力の強化について、資料3に基づき報告があった。

【主な意見】

○カーボンリサイクルの取組は世界中で進められており、他の研究機関等との競争においては、茨城大学独自の強みが必須だと考える。茨城大学にどのような強み、技術があるのか教えていただきたい。

●CO₂回収については、世界中で技術開発が進んでいる中で、日本はかなり遅れている状況である。一方で、世界で開発が行われているCO₂回収法は、エネルギーを非常に使う方

法であり、経済的な問題がある。本学は、エネルギー効率のよい新しい回収法の開発に挑戦しており、十分に競争力があると考えている。燃料合成については、本学教員が文部科学大臣賞を受賞するなどの技術力がある。燃料利用については、長年本学が得意とする分野であり、一貫通貫で研究開発を進めることができる教員と設備を持っているところに強みがある。

○非常に素晴らしい取組だと思う。現在、全国の大学がこの分野に力を結集しており、今後競争が激しくなることが想定される。茨城大学がこの分野で最先端の研究・教育を続けていくためには、教員の採用・処遇について、戦略的な人事制度が必要だと考える。

●大変重要な点だと考えている。今回の取組においては、教員の新規採用のための予算を確保できたため、最大限活用したいと考えている。また、既存の教員も非常に実績のある若手教員であり、今後も活躍が期待できる。現在もオンラインにてヨーロッパ、アメリカ、インド等の研究者と頻繁にやりとりをしているが、さらに、世界中の研究者達と日常的に会話ができるような環境をつくり、共同で研究を進めていく体制を取りたいと考えている。

●本学の新たな重点分野となるため、強化していきたい。

○興味深い内容であった。この後の技術の実用化や産業利用について、具体的な道筋を伺いたい。

●産業化は大学だけではできないと考えている。材料やシステム化等を得意とする企業と組むことや、国等からの資金サポートが重要である。すでに関係各所との話し合いは進めており、今後大型の共同研究に発展させていきたいと考えている。

Ⅲ その他

1 全体を通じた経営協議会委員からの意見

特になし

2 監事からの意見

・予算編成方針について、今後の運営費交付金の確保が厳しい中で、人件費の追加措置は行わないことを基本としているが、中期目標の達成に向けた事業や、新たな教育組織の立ち上げを行うためには、スクラップアンドビルドによる既存事業や組織の削減、DX推進による業務の見直し、効率化等による教育研究体制の強化が必要だと考える。そのような視点で改革を進めていただきたい。

・大学にとって研究力の強化は非常に重要な事項である。引き続き、研究力強化に繋がる具体的な取組を精力的に続けていただきたい。

3 次回経営協議会開催日

太田学長から、令和5年3月を予定しており、後日日程調整を行う旨、確認があった。